

建設DX展の特別講演に役員が登壇。 また、 建設DXアワード2025に共催しました。

去る2025年12月10日(水)から12月12日(金)の3日間にわたり、東京ビッグサイトにおいて、建設業界で日本最大級の展示会、JAPAN BUILD展が行われました。9分野にわたる建設関連の展示が行われる内、建設DX展において、建設RXコンソーシアム（以下、RXコンソ）の役員5名が特別講演会に登壇。「実装したい建設DXとは？～RXコンソの活動からえた成果と技術～」と題し、RXコンソの設立意義と活動内容、各人の推しの技術の紹介、建設DXの課題などについてパネルディスカッションを行いました。



特別講演会の様子

また、今回は、開催10周年を記念した特別企画として「建設DXアワード2025」が初開催されました。これは、建設DXの推進を目的に企画されたもので、建設DX展の主催者とRXコンソとの共催で行われたものです。今回の開催では43社が予選に参加し、6社がファイナリストとして選出されました。審査員は、RXコンソ正会員30社が審査員として参画し、ゼネコンの視点から評価・採点しました。第1回の最優秀賞は、チャレンジ部門に出場の（株）EARTH BRAINの「安全支援アプリ」が受賞し、PoC実証検討権を獲得しました。その後、参加企業とRXコンソのランチを兼ねた交流会も開かれ、お互いの懇親を深めることができました。

開催概要

JAPAN BUILD展(東京)
 会期:2025年12月10日(水)～12月12日(金)
 会場:東京ビッグサイト
 主催:RX Japan(株)
 来場者数: 33,618名(3日間通し)

12月10日開催

特別講演会「実装したい建設DXとは？～RXコンソの活動からえた成果と技術～」

講演会には、会長 村上 陸太、幹事副会長の原田 知明と小野島 一、幹事の長島 一郎、小林 伸浩と、ファシリテータとして顧問の印藤 正裕の6名が登壇しました。

まず初めに、村上会長がRXコンソの意義について話した後、各人が自社の現場で使用して良かった技術や、RXコンソの共創活動から生まれた技術、協力会員企業の技術をその選定理由とともに紹介しました。

その後のパネルディスカッションでは、お互いの発表を踏まえた意見交換が行われました。共通した課題として上ったのは、建設のDX技術をいかに建設現場で展開していくかです。主に次のような意見がでました。

<パネルディスカッションでの主な意見>

「技術を開発し、相互利用するところまでは来ているが、まだまだ建設業全体では、DXが進んでいるとは言えないと思う。ビジネス的な展開も必要だと感じている。」（村上）



「様々な要素技術をマッチングさせるプラットフォームがまだ少ない。与条件を入れたら、現場に最適な技術を提案してくれるAIエージェントのようなものが出てくることを期待したい。」（小林）



「開発の幅や質の向上が図られたことは良い傾向だが、開発技術は初期コストが高く普及には壁がある、RXコンソが初期導入コストを持つなど、牽引役になれないか。」（小野島）



「良いロボットはあるが、展開が難しい。数をつくることでコストが抑えられるため、例えば、分科会で、300台使おうと決めて使うなどができればと思う。」（長島）



「建設業界向けの技術ではなくても、建設業界用にカスタマイズすれば使えそうな技術があれば、一緒に開発していきたい。ゼロから始める必要もなく、新たな発見もありそうだ。」（原田）



最後は、印藤顧問がまとめとして、RXコンソが「生産性の向上」だけではなくその先にある「建設業界の魅力向上」を目指していること、また、RXコンソを情報収集や発信の場としてうまく活用して欲しいことなどを伝え、講演会を締めくくりました。

12月10～12日開催

2025 建設DXアワード

3日間を通じて熱いピッチ戦が繰り広げられた建設DXアワード。初めの2日間は予選が行われました。参加者は品質・安全、生産性向上などの6部門に分かれて自社の技術を10分間でプレゼンテーションし、一次審査員の採点により各部門の優勝者が選出されます。その優勝者6名がファイナリストとして、最終日に再度ピッチで競い合い、最優秀賞者が決定します。RXコンソの協力会員企業も挑戦しましたが、残念ながら今回は最終審査には残れませんでした。



協力会員企業(株)セーフィーによるピッチの様子



最優秀賞受賞者と村上会長

最終審査は、村上会長をはじめ4名の幹部役員がつとめました。質疑応答では、審査員から、施工管理の一元化等すぐにでも導入したいと実現を期待する声が上がった一方、熟練技術者のノウハウをデジタル化する技術には疑問を投げかける場面もありました。

第1回の建設DXアワードの最優秀賞は、チャレンジ部門から「安全支援アプリ」を提案した(株)EARTH BRAINが受賞。現場の写真をアプリにアップロードするだけで、生成AIが現場の危険を発見し未然のリスクを検知でき、建設現場の安全管理の高度化を図れる点が高く評価されました。最後に、各部門の優勝者に賞状と盾が、最優秀賞者にはそれらに加えてPoC実証検討権が手渡されました。



関係者全員での記念撮影

<審査員代表 村上会長より>

今日の発表を聞かせていただき、皆さんの「熱」を感じました。我々建設業は、特にデジタル化や生産性向上だけでも様々な技術開発を行ってきましたが、あまりうまくいっていませんでした。しかし今、RXコンソでは皆で集まって現場の生産性向上に資する技術を共創していこうとしています。今回皆さんが発表された開発技術を我々もしっかり受け止めて、展開していければと思います。